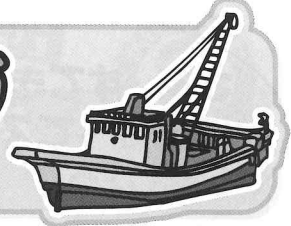




何でも魚^{うお}ツチング

No.79 『は一るばる来たでヒラメ、北海道からー』



今年の6月に底びき網漁業者の方から標識の付いたヒラメを漁獲したとの報告をもらいました。そのヒラメの体重は1kgで、堅苔沢沖で漁獲されました。頂いたオレンジ色の棒状の標識には「シリウチ H21 No0607」と印字されていました。シリウチⅡ「知内」は北海道の地名、つまり北海道で放流されたものか? というところで、北海道の(地独)中央水産試験場↓北海道栽培漁業振興公社↓渡島中部地区水産技術普及所に順次問い合わせた結果、やっとのことでヒラメの由来がわかりました。このヒラメは平成22年に北海道南部の北斗市上磯郡漁協が定置網に入ったヒラメに標識をつけて海に放したものだそうです。



ヒラメについていたプラスチック製標識(長さ2cm)

なぜヒラメを標識放流したかという点、地元では全長35センチ以上が出荷サイズ

であるが定置に入る30センチほどのヒラメが何年ぐらいで漁獲サイズになるかを知るために試験を行ったということですので、北海道以外の海域で再捕されることは考えていなかったようです。

今回漁獲されたヒラメはその標識番号から、平成22年9月に全長30センチ、体重294gで放流されたものであることが特定されました。ということは、約2年で体重が294gから1kgまで大きくなったわけですが、これは日本海における2才から4才までのヒラメの成長にほぼ一致するので、放流後は順調に成長したものの思われました。

魚などの資源には「系群」というまとまりがあり、北海道のヒラメは「北海道系群」、山形県のヒラメは「日本海北・中部系群」に属すといわれています。魚の移動は系群の範囲内で行われるのが普通ですが、今回のヒラメは、北海道から本州の別の系群の海域に大きく移動してきてしまったようです。

北海道から放流したヒラメがどこまで移動するかについて調べてみたところ、長距離の移動例として、北海道南部から放流されたものが新潟県で採捕された事例が報告されているということです。また、北海道では晩夏〜秋に比較的短期間に北方または対馬暖流の広がる南の方向へ移動するものがあるとのことですので、対馬暖流を遡って山形まで来てしまったのかもしれない。ちなみに、山形県で放流したヒラメの南下記録は富山県です。

このヒラメ君、ひよっとしたら、もつと南方まで行って北海道へ戻る途中に捕まったのかもしれない。いずれにせよ、なぜ津軽海峡を超えたのか? さらに何を求めて青森、秋田、山形へと南下したのか? えさか? 仲間か? 恋の相手か? 住みやすい環境か? それともただ旅に出たかったのか? 1尾のヒラメの生き方に興味は尽きません。

今回のように標識が付いた魚が獲れましたら、貴重なデータとなりますのでぜひ水産試験場までご一報のほどお願いします。

北からわたってきたヒラメはいいとして、西からやってくる大型クラゲ(エチゼンクラゲ)は来ないでほしいものです。今年のは来遊のなかった昨年、一昨年とは異なり、発生海域といわれる黄海で広範囲に分布が確認されており、8月24日時点で山口県沖〜隠岐諸島〜鳥取県沖の複数の調査点で入網・分布がみられています。水産試験場からもクラゲ来遊情報を漁協支所にファックスで流しますので、今後の出現情報にご注意下さい。

また、全国のクラゲ来遊情報は漁業情報サービスセンターなどでまとめてインターネットなどにより公表されていますが、この情報は漁業者の皆様からの情報提供によって成り立っているものです。今後とも、庄内浜におけるクラゲ出現情報についてもご協力のほどお願いいたします。水産試験場 浅海増殖部長 平野 央